



## 中学生 15 名が宮城県石巻市と東松島市を訪問 ~No.2~

9 月号でお伝えしました宮城県の訪問事業に参加した中学生より感想文が届きましたのでご紹介いたします。また、保護者の方からも感想が届いていますので、あわせてご紹介いたします。

【中村中学校 3 年 橋本早紀さん】

被災地に行って私が学んだことは、自然の怖さと地震は時間を選ばないことです。

まず最初に行った石巻市の門脇小学校。私は、門脇小学校の周りをバスで通っている時、本当に今まで見たことのない景色で言葉を失いました。その片端には、がれきの山や流された車、ぐしゃぐしゃの車、まだナンバーのついている車がたくさん積まれていました。バスの中で話を聞いて、門脇小学校の目の前の道路には当時 100 台以上の車があったらしく、それも渋滞になっていたそうです。小学校の中を見に行ったときは、ランドセルや靴、うわばきなど当時のままになっていて、それを見るだけで津波が来たのを物語っているように見えました。教室を見たときは教室の床がでこぼこになっていて、ガラスはすべて割れ、いろんなどこに散っていました。カーテンはボロボロにやぶれたり焼けていました。車が流れてきて学校は全焼したと聞いたとき、在校生の子供たちや卒業した生徒の母校がなくなった…と思うと悲しいと思ったし、私の立場だとその現実を受け止めるのは難しいと思います。それにバスの中で聞いた「プールに入れない子、おにごっこをすると思い出す子」がまだいること。私は想像すると、とても怖いものだったんだなと思いました。

次に石巻日日新聞社に行って中学生に話を聞きました。その中学生は机の下にかくれたけど、机をおさえている感じで必死につかまっていたそうです。その中学生は震災で失ったものもたくさんあったけど、得たもののほうが多いと言っていました。それは、人の優しさ、物資を送ってくれた人に宛てて書くお礼の手紙でも交流ができたり、震災があったから今では家の 2 階にも小さな冷蔵庫を置くようになったそうです。中学生との交流の中で私は考えてもなかったような地震が来ると思うととても怖くなりました。

次に行ったケアハウス「はまなすの里」では、たくさんのお年寄りの方が職員の人たちと初めに歌を歌ってくれました。歌は石巻市や東松島市のことを歌っている歌で「みんなの好きな町が地震で流されたけど、みんなはこの歌が大好きなんです」と職員さんが言っていたのがとても印象的でした。ケアハウス「はまなすの里」には当時たくさんの方が寝泊まりをしていたと言っていました。2 週間ほどお風呂にも入れなかったそうで、職員の方々は、もしものために車の中に着替えや食料を入れているという人もいました。職員は当時 44 人いたみたいだけど、13 人も辞めたそうです。

次に行ったのは東松島市の社会福祉協議会です。そこで杉山さんと杉山さんのお母さんに話を聞きました。杉山さんの話の中で「災害はいつ起こるかわからないので家族とよく話しておくこと」と言っていました。私は本当だなと思いました。杉山さんのお母さんも「家族とよく話して逃げる場所を決めておくことが大切」と言いました。私はこの 4 日間で「地震」は人ごとじゃなく本当に起こるものとして考えて、家族とも真面目に話し合うことが大切なんだと思いました。それと逃げる場所を決めておくことも大事なことが分かりました。私は学校でも南海地震についてとか今まで何回かしてきたけど、なんとなくで「本当に地震って来るのかな?」、「地震が来てからでえいやん」とか思っていたけど、本当に地震が起きてからじゃ遅いことが分かったのでいい勉強になったし、地震への意識が高まりました。

た。これからは、東日本の復興を応援して私にできる募金や、東北産のものを買うなど少しずつしていきたいと思います。

参加中学生の保護者から” [参加者岡村有起君のお母さんより]

この度は東日本大震災被災地訪問事業に参加させていただきありがとうございました。この事業では子どもなりにいろいろな事を考え、いろいろな事を思い、とても貴重な体験をした4日間だったと思います。テレビでは何度も見たことのある光景も実際に現地で見ると、驚きと複雑な思いでいっぱいだったことなのでしょう。とても衝撃的だったと思いますが、被災地でいろいろな人たちの話を聞き勉強させてもらったおかげで、地震、津波の怖さを知り防災への意識も高まったことと思います。そして、当たり前前の普通の生活ができることもありがたいことと感ずることができたと思います。縁あってこの事業に参加させてもらえたのだから、この経験を忘れることなく自分たちの地域でも役に立てる人になってもらいたいと思います。この4日間は、なかなかしんどいスケジュールだったと思いますが、スタッフの皆様のおかげで体調を崩すこともなく、震災についてしっかりと学ぶことができ、そして一緒に参加した他校の友達とも仲良く過ごすことができた様で大変ありがたく思います。4日間本当にありがとうございました。



### 《ご寄付のお礼》

9月9日に行われました福祉チャリティー歌謡ショーでの募金として、「寿桜の会」様より120,000円のご寄付をいただきました。このご寄付は、地域福祉の充実のために有効に使わせていただきます。ありがとうございました。

# ～第8回 四万十市福祉ふれあい合同運動会～

《日時》平成24年10月13日(土)午前9時30分開会～午後3時

《場所》四万十市民スポーツセンター体育館(安並)

日ごろ外出機会の少ない高齢者や障害者の方々、また、その地域の方々とボランティア団体、福祉関係機関などが交流と親睦を深めながら、「住みよいまちづくり」の促進と、運動会を通じて「お互い助け合う気持ち」を持つことが出来るようにすることを目的に開催します。

チーム編成については次のとおりとします。

- (赤色)中央チーム …… 中村
- (白色)東部チーム …… 東山・下田
- (黄色)西部チーム …… 八東・具同・中筋・東中筋
- (緑色)北部チーム …… 後川・富山・藤岡・大川筋・西土佐



たくさんのご参加をお待ちしています。

競技参加者にはもちろん賞品を用意しています。もちろん、走らなくてもいい競技がたくさん!! さらに応援賞も準備していますので盛大な応援をお願いします♪



東山保育所園児の皆さんによるかけっこはもちろん、今年も中村西中学校吹奏楽部も来てくれます♪

## 《四万十市社会福祉協議会 地区社協事業の総括》

社協だより 8月第88号で「地区社協事業と健康・福祉地域推進事業について」お知らせしましたが、紙面の都合上地区社協の設立の経過や歴史などを割愛しておりました。そこで今回、四万十市社会福祉協議会(旧中村市社協)が取り組んできた地区社協の経緯等について総括します。

「住み慣れた地域でひとりひとりが安心して暮らしていけるよう、お互い助け合える地域づくり」を目標として、平成12年度に中村市社会福祉協議会会長から中村市民生委員児童委員協議会会長宛に、地区社協設立及び運営支援の要請をしたことが始まりです。

中村市社協では、平成13年にモデル地区を設定して各民児協の地区会や地域での説明会等を行い、区長さんや民生委員さんの協力のもと、中村市で初めて平成13年11月27日に竹屋敷(下古尾・上古尾・竹屋敷3地区合同)に地区社協が設立されました。竹屋敷地区社協では、「だれもが安心して暮らせる竹屋敷」をキャッチフレーズにしたビラを作成して

全戸配布し、見守り活動を始め、ちょっとした困りごとに対応していく体制を整備するなどモデルとなるような活動が行われました。その後平成14年4月伊才原地区社協、5月古津賀第1団地地区社協、6月佐田地区社協、8月古津賀第2団地地区社協と4地区で設立されました。また、平成15年4月井沢団地地区社協、6月奥鴨川地区社協・口鴨川地区社協の3地区で設立され、平成16年6月カツラ山地区社協、平成17年4月東富山(片魚・常六・大屋敷・三ツ又4地区合同)地区社協、平成21年4月に名鹿地区社協と、合わせて11の地区社協が設立されておりました。

各地区社協では、高齢者世帯・ひとり暮らし世帯への声かけをはじめ、地区住民の健康づくりの一環としてウォーキングやラジオ体操、山登り、交流を目的とした花見や七夕まつり、夏祭り、地域の美化活動やおせち料理の宅配など様々なきめ細かな活動が行われておりました。

また、地区独自の広報誌の発行や四万十市社会福祉協議会事業への協力もいただいておりますし、各地区社協では、いかに地区住民にとって安心して暮らせる

地域を目指すのかを考えながら活動をしていただきました。その結果、県下でも注目される活動事例が各地区で行われ、県の社会福祉大会で事例報告をするなど、先進的な活動を行っておりました。しかし、一部の地区では年を重ねるごとに、役員(世話役)の後継者問題などで、活動を休止する地区社協も出てきましたし、社協会費や共同募金配分金を基にした活動でしたので、大変財源に乏しく運営面などでの課題も抱えながらの活動でした。

そこで市や関係機関と協議を重ねた結果、今年度より「地区社協」という名称自体はなくなり、「〇〇地区健康福祉委員会」という名称に変更され発展的解消となりましたが、地区社協が設立されていた地区では、従来の活動を基本にしながら新組織への移行がスムーズにされております。

各地区社協の会長さんを始め役員のみなさま本当にお疲れ様でした。今後四万十市社会福祉協議会では、この新規事業(健康・福祉地域推進事業)に積極的に参画して、立ち上げや運営の支援について出来る限り協力させていただきますので今後もよろしくお願いいたします。



平成13年11月27日  
竹屋敷地区社協設立総会



平成21年4月1日  
名鹿地区社協設立総会後の餅投げ

# 四万十市ふれあい相談センター

無料 秘密厳守

《場所》 四万十市社会福祉センター 四万十市右山五月町 8-3

**一般相談** 暮らし・福祉・教育など一般的な相談 平日 8:30～17:15

**専門相談** 弁護士無料法律相談 各4名まで(予約制) 13:30～15:30

(1人あたり30分)

(10月の法律相談) ……10月17日(水)

(11月の法律相談) ……11月7日(水)・21日(水)

問合せ・予約は社協本所まで (TEL 35-3011)

※都合により変更になる場合があります。

## 【地域住民を守る災害救護救援研修会】

9月9日(日) 四万十市立中央公民館に於いて地域住民や赤十字奉仕団を対象に、研修会が開催されました。近い将来必ず起こると言われる「南海地震」発生から1週間をどのように生きていくのかや、自分自身や家族、地域住民を守る為の具体的な応急処置等を学びました。

四万十市社協(本所/支所) 予定表【10/10～11/9】

日	曜日	内容	場所
10/10	水	手話教室	支所
		中半サロン	中半
		口屋内サロン	口屋内
13	土	福祉ふれあい運動会	安並体育館
16	火	和太鼓教室	ふれあいホール
		SST研修	支所
17	水	編み物教室	支所
		書道教室	支所
		ふれあい体操	口屋内
		手芸教室	口屋内
23	火	和太鼓教室	ふれあいホール
		短歌教室	支所
24	水	傾聴ボランティア養成講座②	支所
25	木	秋桜クラブ	ふれあいホール
		須崎サロン	須崎
26	金	男の料理教室	保健センター
31	水	傾聴ボランティア養成講座③	支所
11/5	月	3B体操	ふれあいホール

## 幡多福祉人材バンクからのお知らせ

※ヘルパー2級・調理師・介護福祉士・ケアマネージャー等の資格をお持ちの方で現場での業務経験のない方、また、長い間現場から離れている方、幡多福祉人材バンクに登録しませんか? 「子育てが一段落した!」「資格を生かした仕事がしたい!」という方お待ちしております。求人情報を提供し、福祉の職場を無料でご紹介します。また、資格をお持ちでない方は資格取得のご相談も受け付けています。

《福祉の仕事日曜相談》  
四万十市社会福祉センター  
10月21日(日) 13時～17時

**※11月25日(日)の日曜相談は都合により9時～12時に変更します。**

【問合せ先】  
無料職業紹介所  
幡多福祉人材バンク  
(四万十市社会福祉協議会内)  
TEL 35-5514  
●平日(月)～(金)の9時～17時も相談に応じています。

## おことわり

紙面の都合により(ご寄付の御礼)は次回に掲載いたします。

四万十市社会福祉協議会では、はつらつデイサービスで勤務する臨時看護師(正・准)を募集しておりますので、希望される方は10/15(月)までに事務局35-3011までご連絡ください。